

# 尚徳

学校便り「尚徳」6月号

第468号

鳥取大学附属小学校

平成23年6月14日

<http://www.fuzoku.tottori-u.ac.jp/~fusho/>

題字「尚徳」は、住川英明教授（地域学部）



## 心遣い

副校長 北村 順子

朝の低学年児童玄関前のトイレで見かけた光景です。1年生でしょうか、しゃがんで何か一生懸命しています。スリッパ揃えです。自分が履いたのはもちろんのこと、5足あるスリッパを全部番号順に並べ（低学年用には揃えやすいように番号が書いてあります。）ているのです。私は思わず「すごいね。きれいになったね。ありがとう。またよろしくね。」と声をかけていました。スリッパ揃えをしている時のその娘の心の中には、きっと次に使う人のことを思い浮かべて、使いやすいようにという思いがあったのだと考えます。

3年生の毛筆書写の後片付けの時間。（3年生の毛筆の学習は4月からスタートしました。）学習係の児童が筆を洗ったバケツの後始末をしてくれます。墨で真っ黒になったバケツの内側、外側を丁寧に丁寧に洗ってくれます。休憩時間になっているにもかかわらず。子どもながらに、頭が下がる思いがします。学習係の児童の心の中にも、次に使う人のために、きれいにして返そうという思いがあったのだと思います。

自分のことだけを考えて、自分本位の行動をとっ

てしまうことが多いと指摘される現代社会。ゴミのポイ捨てや乗車マナーの乱れ等、新聞やテレビでもたくさんの事象が紹介されます。僕だけなら、私だけなら、と安易な方に流れる自己中心的な考えがこの行動を産む源なのではないでしょうか。何もないきれいな所にゴミを一つ捨てるのには抵抗があるけれど、ゴミだらけの所であれば、何の抵抗もなく、皆がしているのだから、ゴミ箱まで持って行くのは面倒くさいからと理由つけてゴミを捨てる。乗車マナーにしても、周りの人の迷惑に思いを向けることができず、皆がしゃべっているから、自分もしゃべってもだいじょうぶだろうと判断する。つまりはそれが社会の風潮になってしまうのです。

一人一人に少しだけでも、周りの人や次に使う人のことに思いを寄せて行動する気持ちがあれば、心遣いがあれば、皆が気持ちよく過ごせる場を創ることができると思います。それは、とりもなおさず社会性を育むことに繋がります。日々の学習や生活の場面をとらえながら、大切にしていきたいことの一つです。

今日も学校を回りながら、トイレのスリッパがきちんと揃っていると、思わず口元がゆるんでしまう私です。

## 【防犯教室】



鳥取警察署のスクールサポーターの高本卓志さんを講師に迎え、不審者に遭遇した場合の対応の仕方について学びました。下学年は、場面劇を行い、声をかけられたらどうすればいいのか考えました。上学年は、実際に児童が声をかけられたり、車に連れ込まれそうになったりした場合を想定して模擬練習を行

いました。声をかけられたら、手を伸ばして触られない間隔をとったり、手をとられたら「アーン」のポーズで振り払ったりする離脱方法についても学びました。自分の命を守るため、どんなことに気をつければよいのか真剣に考えました。

## 【砂の学校】

5月6日、今年も「砂の学校」を鳥取砂丘で実施しました。バスで砂丘に向かい、到着後きょうだい学年ごとに元気に砂丘を横断しました。大すりばちの上までがんばって登る学年もありました。1年生も6年生と手をつなぎ、一生懸命歩きました。

学年別中距離走には、今年も校長先生も飛び入り参加。他にも砂の上ならではの楽しい競技

を行うことができました。

恒例の「綱うばい競争」では上学年の白熱した戦いが見られ、下学年は松林の中を走り回って「松ぼっくり集め競争」にがんばりました。

色別グループの活動として、いっしょに弁当を食べたり、力を合わせて「砂盛り競争」をしたりしました。ここで培ったチームワークを今後の活動に生かしていきたいと思います。



